

# 第5回那覇市IT戦略会議

---

企画財務部 企画調整課DX推進室

2023年3月2日

# 計画策定プロセス・スケジュール

# 計画策定スケジュール



## 第4回IT戦略会議でいただいた指摘への対応方針

# 第4回IT戦略会議で得た指摘事項に対する対応方針

取組事項	指摘事項詳細	対応方針
全ての取組事項に共通した意見	<ul style="list-style-type: none"><li>計画期間中の行動を予めすべて詳細化するのではなく、アジャイルの考え方を採用して1つのプロジェクトを短い期間に区切り、小さく成果を出していくように進めていくべき。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>当計画では、アジャイルガバナンスの考え方を採用し、各取組の目標に至るための手段を臨機に選択していくとともに、アジャイル型の計画運用の成功体験を積む。</li></ul>
DX施策実行に至るまでの動機形成	<ul style="list-style-type: none"><li>各部署の職員のDXに対する自発性を引き出すための工夫をすべき。過度に職員に対してDXに関するタスクを課しすぎると、職員の自発性を削ぐ結果となってしまう。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>本計画及び研修等を通じて、各部署に対して、DXを推進する理由を伝えた上で、DX施策の実行に関する一部の権限と責任を各部署に移譲することで部署のDXに対する自発性を引き出す。</li><li>短い期間で小さくDXの成功体験を積み上げる。その成功体験を庁内に情報発信することで、職員が取組に対する効力感を得られるようにする。</li><li>職員が関心のある業務を担当できるよう、一部の取組を手挙げ参加制のプロジェクトにする。</li></ul>
デジタルを活用した公民連携事業の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>那覇市内外のシビックテック団体にとって、那覇市が活動しやすいフィールドとして認識されるよう、行政内部・地域の民間企業に対してシビックテック団体に対する理解促進を図っていくべき。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>地域の民間企業にとってのシビックテック団体や行政と連携するメリットを訴求していく。</li></ul>
データ連携基盤のユースケース検討	<ul style="list-style-type: none"><li>まずは、期限と領域を1つに定めた上で、複数の課が連携して那覇市における先行事例をつくるべき。</li><li>先行事例からナレッジを得て、他領域のユースケースを検討していくのがよい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>計画期間の序盤は、1つの領域に絞って、業務所管課・DX推進室・システム課等で連携してユースケースを検討する。検討にあたっては、庁内関係部署及び関係する外部機関との合意形成に十分な時間を割り、各主体にとってデータ連携基盤を導入するメリット及び障壁を明らかにする。</li><li>その上で残りの計画期間は、序盤に検討したユースケースの事例から得たナレッジに基づき、他分野に展開する方法を検討する。</li></ul>

## 第4回IT戦略会議で得た指摘事項に対する対応方針

取組事項	指摘事項詳細	対応方針
業務効率向上に資するペーパーレス化の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 庁内で生み出される情報をデータ化して保管するとともに、それを活用しやすいよう、「文書管理規定」のデータ版、「データ管理規定」のようなものを設けて、データ生成から利活用までをルール化してみてもどうか。</li><li>・ デジタルで情報管理するのであれば、物理的な保管場所を必要としないため、情報の廃棄基準も見直すべき。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 今後の庁内業務のペーパーレス化の熟度に応じて、現行の紙媒体で情報を管理することを前提とした廃棄基準等のルールを、電子媒体で管理することを前提としたルールへと転換する。</li></ul>
業務効率を最大化できる労働環境・ルールの整備	<ul style="list-style-type: none"><li>・ テレワーク及びフリーアドレスは業務特性によってはメリットがないため、一律に推進するのではなく、業務特性に応じて導入すべき。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 打ち手をフリーアドレスに限定せず、部署ごとの業務特性に応じて生産性の高い働き方を選択できるよう、制度とIT技術の両面から検討を進める。</li></ul>
業務効率を最大化できる労働環境・ルールの整備	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 既存業務に対してBPRを行い、その結果として職員数の稼働を減らすという順序ではなく、該当部署の職員を減らした上で業務の効率化を促すことで、必要な業務だけが残り、なおかつ業務導線の最適化も図ることができる。BPRの施策から考えるのではなく、業務の変革を促す外圧（担当職員数の削減等）を先行して設定してはどうか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 業務の削減効果を具体的に見据えた上で、バックキャスト型のアプローチで業務のあり方を抜本的に見直す。</li></ul>

# 本日の議題

## 第5回IT戦略会議の議題

---

### 1. DX推進計画素案のご報告

これまでいただいたご意見を踏まえて、DX推進計画の素案を策定しました。事務局から計画素案の内容についてご報告いたします。

### 2. DX推進計画に対する審議会からの提言書の内容確認

全5回のIT戦略会議をとおしていただいたご意見がDX推進計画にいかに関与されているかを整理し、庁内に示すための提言書の形式でまとめることを想定しております。提言書の素案について、ご発言いただいた意図に誤りがないかご確認ください。

### 3. DX推進計画書に掲載するコメント作成の依頼

審議員の皆様から本計画に対する期待や積み残し課題等についてコメントをいただき、計画書内に記載することを想定しています。つきましては、3/9（木）までにコメントシートを記入いただき、NTTコミュニケーションズ宛にご提出ください。

## コメントシート

以下の項目をご記入いただいた上で、3/9（木）までに、s.maekaho@ntt.com宛にご送付ください。

写真

所属団体／役職

お名前

コメント記入欄（50～100文字程度でご記載ください）